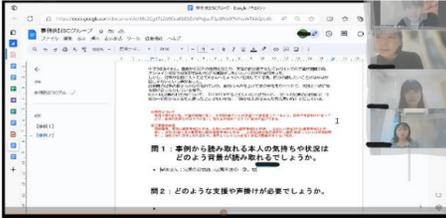


団体名	NPO法人アスイク	活動タイトル	拠点に参加できない子どもとつながるためのオンライン支援	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	ビジョン：「困ったときに、必要な人に、つながれる社会」 拠点型の支援に参加することができない子どもほど、より社会的に孤立しやすい状況に置かれているため、地域の関係機関等との連携によって発見、関係構築を行い、当法人がハブとなって多様な人とのつながりを作り出すことや、家庭全体が抱える生活上の課題に対して地域の関係機関へつなぎ、ネットワークで見守る体制の構築を行いたい。		オンライン 教室開室 教室開室後、他スタッフと一日の流れやこどもについての情報共有を行う。	
●団体の社会的役割(ミッション)	ミッション：「生きづらさを抱える子ども・家庭と社会をつなぎ続ける」 今を生きる子ども・若者、親と社会の間に立ち、社会がいかに形を変えようとも相互のつながりの中から、関心、当事者意識、相互理解を生み出しつづける社会インフラとなる。			
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源： 十分なスキルを持ったソーシャルワーカーを確保し、訪問支援スタッフのチームを設置できている。 間接部門（広報・ファンドレイジング）の専任スタッフが配置されている。 ●望ましい物的資源： 訪問支援に必要な社用車が確保できている。 オンラインの支援にあたって環境が整っていない家庭のために、レンタル用のPCやWi-Fiを十分に確保できている。 ●望ましい活動資金： 訪問支援スタッフを配属できるだけの予算（数千万円規模）を確保できている。 寄付金など活動の用途が制限されない財源を安定的に確保できている。 ●望ましい情報： 寄付営業のための法人や高所得者のリストがある。 孤立していて支援につながりにくい家庭の情報を地域の関係機関と連携して十分に得ることができている。			
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
●年度末アンケート、学力テストの実施 「学力」英語3.6%増加、数学7.2.%減少 「肯定的回答割合」ほぼ全ての項目で肯定的な回答が多くを占めた。 ●仙台市の担当部局と予算化に向けた提案を実施 仙台市の学習・生活支援事業については、次年度よりオンラインが支援メニューとして追加された。 ●スタッフ研修の実施 こどもとの関わりに難しさを感じているスタッフへ向けて、事例検討やロールプレイングを行う事で、個々のアプローチ方法やこども対応についての知識向上に繋がった。 ●活動説明会の開催、大口の個別寄付営業 活動説明会を4件開催し、企業から30万円を超える大口寄付が一件あった。実績として、定期的に食品寄付をいただける企業3社、月1,000円のマンスリーサポーターが6名増えた。 また、プロスポーツ球団2つと協働し、継続的な食品寄付をいただいている（フードドライブを6か月で6回）		●年度末アンケート（3月）学力テスト実施（4月） 概要：開催 各1回、延べ参加者数：677名 成果：ほぼ全ての項目で肯定的な回答が多くを占めた ●①研修での事例発表 ②オンライン記事の掲載 概要：各1回 成果：仙台市の学習・生活支援事業については、次年度よりオンラインが支援メニューとして追加された。 ●スタッフ研修会の実施 概要：6回 成果：アンケート「受容」9割 ●①活動説明会の開催 ②大口の個別寄付営業 概要：①活動説明会を4件開催 成果：②企業から30万円を超える大口寄付が一件、②定期的に食品寄付をいただける企業3社		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
●オンラインを活用した学習支援の実施 こどもとの関わりに難しさを感じているスタッフへ向けて、事例検討やロールプレイングを行う事で、個々のアプローチ方法やこども対応についての知識向上に繋がった。 ●継続・普及に向けた活動 （オンラインの自治体の施策化、他団体へのノウハウ移転） 全国こどもの貧困・教育支援団体協議会を通じた個別の団体への伴走支援では、オンライン導入以前に専従職員の雇用ができずに支援の継続、多様化に課題を抱えている団体が多いことが改めて確認された。 ●広報・資金調達活動 寄付につなげる活動説明会や企業への営業を実施したが、広報が不足したためか思うように寄付には至らなかった。食品の寄付受け入れは大幅に増加したことから、団体の認知度や支援者のニーズが一定程度あることは確認できた。		●オンラインを活用した学習支援の実施 学習面のサポートや画面上では読み取りにくい変化、こどもの気持ちの汲み取りに難しさを抱えるスタッフがいた。「スタッフ研修は継続して行なうべき」という意見が100%だった為、今後も更なる支援向上の為に研修会を継続する必要がある。 ●継続・普及に向けた活動 （オンラインの自治体の施策化、他団体へのノウハウ移転） 周知活動は実施したが、実際にオンラインを自治体の施策まで導入する団体はなかった。オンライン学習支援を活用する子どもを増やしていくための周知と人員体制の確立を、めざす。 ●広報・資金調達活動 団体の活動や子どもたちのニーズを広く地域社会へ発信していき、寄付の必要性を伝えていく必要がある。金銭的寄付は思うように集められなかったが、食品の寄付は増加している。寄付者の潜在的ニーズに応えられるよう発信力の強化が必要である。		
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			オンライン 教室 スタッフ研修会	
この1年間の活動を通じて			・参加者の「肯定的回答」が7割以上 ・「自分の気持ちを受容してもらえたと感じる」9割以上	
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）				
●子ども向けの年度末アンケート結果として、特にコミュニケーション力、学習意欲の満足度は肯定的な回答が多くあった。 ●周知活動は実施したが、実際にオンラインを自治体の施策まで導入する団体はなかった。 ●スタッフ研修を行う事で個々のアプローチ方法や子ども対応についての知識向上に繋がった。 ●寄付につなげる活動説明会や企業への営業を実施したが、広報が不足したためか思うように寄付には至らなかった。				